

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.16

■平成23年12月26日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

CONTENTS

- ・平成23年度 日本仏教社会福祉学会 第46回大会報告
- ・平成23年度日本仏教社会福祉学会第2回理事・役員会報告
- ・第4回学会賞 募集要綱
- ・アジア仏教社会福祉学術交流基金
平成23年度研究助成 募集要項
- ・日本仏教社会福祉学会 第47回大会について
- ・会員の皆様へお知らせ

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成23年12月26日

発行：日本仏教社会福祉学会事務局

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1

大正大学 アーバン福祉学科

ソーシャルワーク専攻事務室内

TEL：03-3918-7311 (代)

FAX：03-5394-3057

E-Mail:ohdai-sw@tais-shafuku.sakura.ne.jp

平成23年度 日本仏教社会福祉学会 第46回大会報告

平成23年9月3日・4日に予定されていましたが、台風のため残念ながら第1日目を中止とし、第2日目の個人発表及び震災対応のシンポジウムのみが行われました。なお1日目の大会内容につきましては、講演予定者の皆様に改めて文章に起こして頂き、次号日本仏教社会福祉学会年報に掲載予定です。

【大会内容】

第1日目 中止

第2日目 自由研究発表 9時30分～12時15分

第1分科会

- ・認知高齢者による「理解」から始まる援助関係
井上敦氏 (淑徳大学大学院)
- ・介護計画策定過程を基礎とした
ケアプランへの変換について (その2)
～仏教と居宅介護支援～
佐伯典彦氏 (社会福祉法人青山福祉会)
- ・災害救助員のための
仏教を背景とした支援システムの必要性について
栗田修司氏 (龍谷大学)
- ・浅草寺福祉会館による思春期・青年期への支援事業
～思春期関係者ネットワークから寺子屋らみりあまで～
金田寿世氏 (浅草寺福祉会館)
- ・浅草寺福祉会館による思春期・青年期への支援事業
～寺子屋ぶらと舎を中心に～
井手友子氏 (浅草寺福祉会館)

- ・『臨終行儀』に説かれる留意点
－仏教的援助関係の源流を探る－
長崎陽子氏 (龍谷大学)

第2分科会

- ・死別に伴う在宅高齢者に対する
宗教家の関わり方の検討
河村諒氏 (同朋大学大学院)
- ・「法華七喻」について
－仏教福祉の視点から－
吉村彰史氏 (立正大学大学院)
- ・介護継続の意思と宗教的価値
澤田景子氏 (同朋大学)
伊東真理子氏 (同朋大学)
- ・新仏教同志会の設立と社会運動事業の展開
菊池結氏 (大正大学総合仏教研究所)
- ・仏教福祉学理論導入試論 (承前)
池上要靖氏 (身延山大学)
- ・「被災地山田町に地藏人形百体を運んで」
小野文琬氏 (BNN 仏教NGOネットワーク)
- ・日本における仏教と子どもの関わりについて
－「仏教保育」の意義について－
佐藤成道氏 (淑徳大学大学院)

東日本大震災支援研究チーム報告部会

13時～15時

報告者

- ・福島県いわき市 浄土宗満蔵寺 加藤正淳氏

- ・福島県伊達市 曹洞宗成林寺 久間泰弘老師
- ・全日本仏教会事務局総務部次長 東田樹治氏
コーディネーター
- 淑徳大学 准教授 藤森雄介氏



平成23年度日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告

日時：平成23年9月2日（金） 15時～18時
場所：龍谷大学 深草キャンパス

出席者

- 代表理事 石川到覚
- 個人理事 清水海隆 村井龍治 佐賀枝夏文
菊池正治 宮城洋一郎
- 団体理事 長上深雪 三友量順 徳岡博巳
小島恵昭 林俊光
- 監事 池上 要靖

オブザーバー

- 名誉会員 中垣昌美
- 「仏教社会福祉 入門編」編集委員会 清水教恵
- 事務局 鷲見宗信 赤坂真樹

欠席者

- 個人理事 長谷川匡俊 山口幸照 田宮仁
田代俊孝 菊池正治
- 団体理事 金子保
多田孝文（代理 落合崇志）
- 監事 梅原基雄

代表理事挨拶

石川到覚代表理事の挨拶とともに、台風の影響により、事故の危険もあるため、第一日目のプログラム中止について、審議を求めた。

1. 事務局報告

日本仏教社会福祉学会規定に従い、本日の理事会は成立。

2. 議事

理事会の成立が報告され、石川代表理事を議長に次のように審議された。

第1号議案 会員の異動について

事務局より新入会員11名、退会会員5名及び1団体の報告があり、審議の後それぞれ承認された。また会費未納会員についての報告を行った。

新入会員承認について（順不同）

個人会員

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 新田 秀樹 | 2. 宮崎 牧子 |
| 3. 本多 彩 | 4. 澤田 景子 |
| 5. 田中美喜子 | 6. 魚尾 和瑛 |
| 7. 大塚 明子 | 8. 新矢 昌昭 |
| 9. 渡辺 雄一 | 10. 吉田 博子 |
| 11. 山川 宏和 | 以上11名 |

退会会員の承認について（順不同）

個人会員

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 太田 清史 | 2. 中西 直樹 |
| 3. 中井 真孝 | （本年度末を持って退会） |
| 4. 芹川 博通 | 5. 楠 裕行 |
- 以上5名

団体会員

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 孝道山本仏殿 | 以上1団体 |
|-----------|-------|

よって、個人会員224+（11 - 5）=230名
団体27 - 1=26団体 計256会員

中垣名誉会員より、申請書についてはしっかりと項目について記載してもらおうようお願いしたい。また推薦者については2名が必要な申請書と1名の申請書があるが、どちらが正しいのか。

議長が事務局に確認し、現在は1名推薦である。2名推薦は古い申請書であるが、現在も使用される場合がある。入会申請書については空欄について確認し、記載が無い場合は推薦者に確認を行う。会員には学会の信頼を失うようなことにならないよう、推薦者並びに関係する会員にお伝えを頂きたい旨の議論の後、承認された。

第2号議案 平成23年度事業計画（案）及び平成23年度補正予算（案）について

事務局より事業計画（案）及び補正予算

(案)についての説明を行った。又ホームページの作成については事務局の不手際により制作が遅れている旨を報告した。

議長より、事業計画については従来計画を立てていなかったため作成を行いたい。第一回理事会で承認された二つの特別事業、1) 日本仏教社会福祉学会50周年記念事業 50周年事業委員長：清水海隆 理事、2) 震災対応プロジェクト 震災対応プロジェクト委員長：藤森雄介 会員の予算立て及び事務局員の人件費等について補正予算の審議をお願いしたい。両事業については各委員長より、また年報は佐賀枝理事の代理である藤森会員から報告をお願いしたい。

また第46回大会の第一日目のプログラムは台風の影響により事故等も予想されるため実施について審議頂きたい。

そして、第一日目プログラムの中止により総会が実施できず、また臨時総会を行うことも難しいと判断されるため、郵送による書面審議の形で行う事を提案したい。

清水理事より、日本仏教社会福祉学会50周年記念事業についての説明が行われた。事業の柱としては3点、1) 学会創設期の振り返り、2) 創設から現在までの歩みの確認、3) 現在の研究動向とし、年報または記念論文集により報告を行いたい。また聞き取り調査なども行うため関東は主に清水理事が行い、関西は主に村井理事をお願いしたい。

藤森会員より、年報編集事業についての説明が行われた。刊行については原稿収集のことも遅れている。次号掲載予定の書評については掲載の対象となる書籍を平成24年5月31日までに事務局まで届けて頂ければ年報編集委員会において検討を行う。

議長より、例年年報には大会基調講演・シンポジウム等が記載される。本年は中止となるため、基調講演、シンポジストの発表内容を原稿として投稿頂きたい、またお願いするに当たっては原稿料が発生すると思われるが、その経費については、今大会の出金していない講演・シンポジスト用経費を当てる事について審議したい。

藤森会員より、震災対応プロジェクトについての説明が行われた。事業計画としては、期間を平成25年度までの3カ年とし、1) 震災

の記録を整理する、2) 仏教的視点を持った支援のあり方また寺院を拠点とした活動についてまとめていく。また名称について日本仏教社会福祉学会東日本大震災対応プロジェクトとしたい。被災地の記録については、各宗派教団の支援する側の記録整理、記録の取り方は全日本仏教会に所属する宗派教団にアンケート調査等を実施したい。記録については何らかの形で報告を行いたい。続いて各県レベルの仏教会等についても調査を行っていきたい。第2点については学会の大会等で各実践者の報告会を行い、平成25年度大会で総括的なシンポジウムを行いたい。

村井理事より、東日本大震災対応プロジェクトの位置づけについて確認したい。研究担当理事の下か、理事会の直轄事業なのかを確認したい。

中垣名誉会員より、補正予算の事務職員謝金の増について確認したい。

議長より、学会事務の円滑な運営のため専属の事務職員を置くためである。従来のような院生の協力が現状では期待できないために事務職員を2名配置し給与を払うこととした。

議論の後、平成23年度事業計画及び補正予算、第46回大会第一日目プログラムの中止、及び総会の代わりを書面審議・評決で行うこと、並びに日本仏教社会福祉学会50周年記念事業事業計画、震災対応プロジェクト事業計画および研究担当理事の村井理事の下に置くこと、さらに年報編集進捗状況について承認された。

第3号議案 平成24年度事業計画(案)及び平成24年度予算(案)について

事務局より事業計画(案)及び予算(案)についての説明を行った。平成24年大会は京都華頂大学・華頂短期大学の共催により9月上旬に行う。

池上監事より、大会助成費がマイナス10万円と減になるので、大会開催校が運営を円滑にできるよう出来るだけ早く50万円に戻せるようにしていきたい。

議長より、大きなポスター等を作成し配布すると経費が大変かかる。そのような部分を

押さえなければ経費が抑えられると考えられる。

村井理事より、大会経費は予算に応じて計画される。講師の方や、開催校の立地により交通費等経費も変わってくる。予算に応じた大会運営は可能である。

議長より、現在は大会経費の決算書の提出はお願いしていないが、次回開催校の資料として又大会助成の根拠として提出をお願いしたい。

池上監事より、収入の部の会費収入の算出根拠はなにか、また支出項目の文言についてホームページ作成費となっているが維持費ではないのか、50周年記念事業と東日本大震災プロジェクトの拠出時期と経費の監査はどのように行うのか。

事務局より、算出根拠は平成23年8月31日現在の会員数で行っている。支出項目は事務局の誤記であり、ホームページ維持費。特別事業の拠出時期については、すでに支出されている部分もあるのでなるべく早く対応したい。特別事業については、各委員会から単年度毎に決算報告を頂き監査をお願いしたい。

議長より、特別事業については単年度の決算書及び成果報告書の提出をお願いしたい。

議論の後、平成24年度事業計画及び平成24年度予算、大会決算書の提出、特別事業の単年度決算書・成果報告書の提出について承認された。

第4号議案 諸担当理事・理事会報告

理事会中、暴風警報発令もあり、研究担当理事報告、特別事業報告については第2号議案でも審議されたため「仏教社会福祉 入門編」編集委員会報告のみ行う。

「仏教社会福祉 入門編」編集委員会より編集進捗状況について報告が行われた。

清水教恵委員長より、現在入門編の核となる第一章について各執筆の先生方に見て頂き、執筆される章の調整すべき点、修正すべき点について確認をお願いしている状況である。その上で再度提出頂いた原稿を委員会で検討したい。現在作業が遅れているのは、出版元

である法蔵館担当者が体調不良により編集会議を行うことが出来ないためである。

議論の後、出版社に編集会議の速やかな開催をお願いすることとなった。

第5号議案 第4回学会賞（学術賞・奨励賞）及び平成24年度アジア仏教社会福祉学術交流基金研究・公開助成事業募集について

事務局より、第4回学会賞は平成23年12月31日までに発表された研究業績が対象になるので該当者がいた場合推薦を願いたい。平成23年度アジア仏教社会福祉学術交流基金研究助成については、平成24年3月31日が締め切りとなるので該当者がいた場合推薦を願いたい。なお、秋に発行するニュースレターに改めてこの内容を掲載する予定である。

議論の後、承認された。

第6号議案 年次総会及び大会開催校について

事務局より、第47回大会 京都華頂大学・華頂短期大学、第48回大会 大正大学、第49回大会 同朋大学、第50回大会 立正大学の各校にお願いを行った旨の議論の後、承認された。

その他 委員会の構成員について

議長より、4号議案に関わる各委員会の構成員については委員長に一任として、事務局に報告を頂ければニュースレターに掲載したい旨の議論の後、承認された。

議長より、議事終了を確認し、平成23年度第2回理事会を終了した。

(以上 文責 事務局)



第4回学会賞 募集要綱

1 学会賞創設の意義と目的

創立40周年を契機に、仏教社会福祉研究の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰、および若手研究者の研究奨励を目的とする日本仏教社会福祉学会学会賞を創設する。

2 学会賞の種類

創設の目的にてらし、学会賞は次の2種とする。

I 学術賞

学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰

II 奨励賞

学会員のうちで今後の研究の発展が期待される者の奨励

3 審査の対象

- 平成21年1月1日から平成23年12月31日までに発表された研究業績を対象とする。
- 学術賞については原則として刊行された著作物(単著・共著・編著等)を対象とする。
- 奨励賞については著作物のみでなく、論文(共同執筆を含む)および共同研究成果物(報告書等)も対象とするが、共同執筆の場合は主著者であることを条件とする。
- 対象となる論文は、共著の一部、学会誌、各大学の紀要、海外の専門誌などに掲載されたものとし、外国語のものを含むものとする。

※賞金額について：学術賞10万円、奨励賞5万円とする。

※第5回学会賞は、平成24年1月1日から平成26年12月31日を募集期間とし、平成27年に審査のうえ、各賞を決定する予定である。

第4回学会賞は、平成23年12月締切のため、対象者がいた場合、ご推薦をお願いしたい。

アジア仏教社会福祉学術交流基金 平成23年度研究助成 募集要項

主旨

日本仏教社会福祉学会第39回大会「アジア仏教社会福祉学術交流大会」の開催に当たり、多額の寄付金をいただき大きな成果を上げることができた。その時の寄付金の残金を、ア

ジア仏教社会福祉学術交流基金(1,087,090円・現在787,090円)として研究助成をする。

概要

1. 助成対象

アジア地域(国外)における現地調査研究を対象とし、実施時期は、平成23年度中(平成23年4月1日～平成24年3月31日)とする。

2. 申請者の資格

申請時において40歳未満の本学会の会員とし、非会員は申請と同時に入会申込をすること。個人、団体を問わない。国籍を問わない。

3. 助成金額

1件あたり、30万円を限度とする。用途については特に限定しない。

4. 成果報告義務

被助成者は、当該研究の成果を平成25年度の大会において口頭発表し、併せて『日本仏教社会福祉学会年報』に寄稿する義務を負う。

5. 免責

調査はすべて被助成者の責任で行い、対象の現地調査において調査者がいかなる病気や危害などを被っても、本学会は責務を負わない。

選考方法

1. 方法

申請書類受付終了後、研究担当理事の指名によって選考委員会を開催する。選考委員会で書類審査を行い、平成24年度第1回理事・役員会において決定する。

2. 選考基準

研究の目的・活動が具体的で明確であるもの。調査研究に助成が有効であると認められるもの。

3. 採否通知

採否の結果は、書面にて本人に通知する(平成24年5月上旬の予定)。

申請方法

1. 書類請求

申請希望者は、下記宛に葉書又はメールにて申請書類を請求すること。

2. 申請方法

所定の申請書類一式を事務局宛に郵送すること。

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1
大正大学 アーバン福祉学科
ソーシャルワーク専攻事務室内
日本仏教社会福祉学会事務局
E-mail: ohdai-sw@tais-shafuku.sakura.ne.jp

3. 申請期限

平成24年1月31日（必着）。

（付記）

平成18年9月8日理事会決定により発効。なお、基金を消費し終えた時点で失効する。

日本仏教社会福祉学会 第47回大会について

平成24年度日本仏教社会福祉学会 第47回大会は9月上旬に京都華頂大学・華頂短期大学で開催予定です。

詳細については、大会開催校である京都華頂大学・華頂短期大学より、会員各位に案内が届きます。

会員の皆様へお知らせ

1. 住所変更に関するお願い

新年度になり、ご所属・ご住所などの変更があった方は、事務局までご連絡下さい。事務局からの発送物がメール便のため、住所の変更がありますと、届かない場合もあります。

お手数ですが住所変更などの手続きは遺漏なくお願いいたします。

2. 学会費納入のお願い

平成23年度分の学会費及び過年度の学会費が未納の会員の方におきましては、納入の振込用紙を同封させていただいております。会則第8条において「会費を3年以上にわたって滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことがある。」と規定されておりますのでご留意下さい。詳しくは、同封の「会費納入のお願い」をご覧ください。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

事務局からのお知らせ

1. 「日本仏教社会福祉学会年報」送付について
学会年報を同封で送付させていただきます。昨年度の年報がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局までご連絡ください。

2. 平成23年度総会資料及び議決行使書の送付について
平成23年度総会が台風の影響により中止になってしまいましたので、総会資料をお送りいたします。ご確認の上、同封の議決行使書に署名・ご捺印の上、FAXにて学会事務局宛にお送り下さい。

宛先：日本仏教社会福祉学会事務局
FAX：03-5394-3057

訃報

重田信一名誉会員は、平成23年11月26日にご逝去されました。享年101歳。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

日本仏教社会福祉学

事務局 編集後記

平成23年は、東日本大震災の3月11日から慌ただしく過ぎました。その後、被災地の宮城県・仙台市に何度も出向いております。JR仙台駅を降りると震災があったことが嘘のような変わりない街の風景です。しかし、仙台駅から2駅、3駅と離れていくと未だ津波の傷跡が目に入ってきます。通常の時が流れてつ、一方では非常時の様相が目に入ります。この2つの時間の流れが途切れず、つながるように続けられることを願っております。

本学会でも特別プロジェクトとして震災対応を進めておりますが、調査研究だけでなく、その成果を学会員の皆様にお伝えし、少しでも確かな支援活動につながるよう願っております。また、学会として被災地支援を実践されている皆様の応援が出来ればとも思います。

なお、名誉会員であられた重田信一先生が101歳の天寿を全うされ、本年11月26日にご逝去されました。学会も大変お世話になり、深甚なる感謝とともに、ご冥福をお祈り申し上げます。合掌（鷲見宗信）